

テモテへの手紙第一

パウロは何年にもわたって伝道旅行をし
新しい教会を建てこの働きのためにたくさんの同労者を集めました
テモテはその中の一人です
パウロはリステラという町にいた時
テモテの信仰深い母と祖母に出会い
またテモテ自身のイエスに対する熱い思いと献身に心を打たれました
そこで何年もかけて彼を訓練し
その後幾つかの教会で働くために送り出しました
エペソにある大きな教会にもぐりこんだ偽教師たちが
イエスについて間違った教えを広めていると報告を受けた時
パウロはテモテを派遣し教会の秩序を取り戻すため
彼らと対決させたのです
テモテが現地に着いたあとパウロはこの手紙を送り
その使命を果たすための指示を与えました
この手紙には興味深い構成があります
初めと終わりでは
テモテに偽教師たちの誤った神学に立ち向かうよう送り出していて
それに挟まれるようにして
テモテがエペソの教会で直面する問題への
具体的な指示を書いた二つの大きなセクションがあります
そして最後にこれらのセクションを結び合わせ
結論に導くような3つの詩があり
その内容はよみがえりのイエスを世界の王としてあがめています
では詳しく見ていきましょう
パウロはまず間違った教えを広める教師たちと対決させるために
テモテをエペソに送ったことを振り返っています
そして偽教師たちがトーラーについて
特に創世記にある古代の話や系図について
空想話をする事に夢中になっていると記しています
彼らは食べ物や結婚性のことについて
イエスや使徒の教えとは違う奇妙なことを教えていました
パウロはアレクサンドロやヒメナイといった人物の名前を挙げ
彼らの教えがどれほど教会で論争を巻き起こし
分裂させたかについて述べています
パウロは
これは彼らの教えが歪んでいる明らかな証拠だと言いました
もしキリスト教の純粋な教えならそれはイエスの教えに忠実であり
純粋な愛と信仰をもたらすはずです
またトーラーが書かれた目的は
空想を膨らませるためではなくむしろパウロ自身が経験したように
人間の心の状態を浮き彫りにすることなのです
トーラーについての正しい教えは
罪深く損なわれた人間を救うために来られた
メシアを通して現れる神の恵みへと導くのです
そのためパウロはこのセクションを
王であるイエスをあがめる詩で閉じ

テモテに偽教師とその教えを封じ込むよう命じました
次に偽教師たちによってこの教会に起きた
特定の問題について述べています
まず教会で定期的な祈祷会を開き
ローマ帝国の指導者たちと平和のために祈るようと
テモテに指示しています
というのも平和の神を宣べ伝えるためには
平和な環境が望ましいからです
この神はすべての人が救われることを望んでおられ
イエスを唯一の仲介者として
また贖いの代価として送られたのです
偽教師たちとは対照的に神は全世界を救いたいこと
そして祈ることによってこれを心に留め続けられると
パウロはテモテに教えています
続いてパウロはこの墮落した教師たちの影響を受けた
男性たちと女性たちの問題について述べています
まず偽教師たちが巻き起こした神学的論争によって
怒りにとらわれてしまった男性たちについて
彼らは祈りを学ぶべきだと言っています
次に日曜日の教会の集いをファッションショーか何かと間違えている
金持ちの女性たちを批判しています
彼女たちは高級な服に身を包みそのような服を買うことのできない
他のたくさんの女性たちに肩身の狭い思いをさせていました
そればかりかそれらの女性たちの一部は
教会の指導者の立場をのっとり
偽教師たちの嘘の教えを広めていました
パウロは彼女たちに待ったをかけ
教会で教えたり支配することは許しませんと言いました
このあとパウロは創世記3章にある
アダムとエバと蛇の話を持ち出します
ここはパウロの手紙の中でも
ペテロが言ったように理解しづらい箇所であり
その解釈もいろいろと分かれるところですが
ある人々はパウロはいかなる教会においても
女性が男性を教えたり導いたりすることを禁じていて
アダムとエバの話を出したのは
神は教会の指導を男性にしか許していないと言うためだと考えます
他の人々は女性が男性の上に乗って指導するのを禁じているが
女性もちゃんと教育を受ければ男性の指導のもとに教会で
教えてよいと考えます
またパウロが指導者になることを禁じたのは
このエペソの教会の女性たちだけであり
アダムとエバの話を持ち出したのは
彼女たちが偽教師にだまされたことを
なぞらえるためだと考える人たちもいます
いずれにしろパウロが
エペソ教会の女性たちはテモテの指導のもとで

正しい神学の教えを受ける必要があると考えたことは確かです
その目的は彼女たちが成長しいつの日か
パウロのほかの手紙に登場するフィベやユニアやプリスキラのように
すばらしい女性の働き人になることなのです
パウロはこの指導者の問題についてさらに話を続け
教会の中の夫たちまた父たちから数名を選び
教会の長老または監督という役目を果たさせるよう
テモテに指示をしました
彼らはすぐれた人格者で高潔な人たちでなくてはならず
執事たちと協力して働くことが求められています
執事とは使用人の様な役割で
教会の働きを導き実務を担う男性や女性のことを指し
長老たちと同じような人格が求められます
彼らは健全な家庭生活を送っている人たちでなければなりません
それによって神の家族である教会をも
うまく導けるとわかるからです
また彼らの生き方は
このセクションの結びの詩に描かれているイエスの受肉
死 よみがえり王として高くあげられたこと
そして全世界に広がる神の新しい家族という内容と一致しています
指示を与える2つ目のセクションでも
パウロは再び偽教師たちによる特定の問題を取り上げ
まず誤った神学を訂正しています
偽教師たちはある種の食べ物おそらく肉を食べることを禁じたり
結婚することを禁じたりしました
それはパウロから見れば馬鹿げたことでした
そこで彼は創世記1章を引用して
神が造られたものは食べ物も結婚も含め
すべてよいものだと説明しています
それらは創造者である神に感謝をささげて
受け取るべきものなのです
次にパウロは未亡人に対する教会の支援に話題を移します
この重要な働きは若く金持ちな未亡人たち
おそらく2章に記されていた問題を引き起こしていた
女性たちによって都合良く利用されていました
彼女たちは教会の支援を受けながら複数の男性と関係をもったり
噂話を広めたりして教会の評判を地に落としていたのです
パウロはそれを許せませんでした
彼はもっと高齢で家族からの援助もない未亡人こそ
支援に価するのであり教会は彼女たちのためにイエスの愛と
惜しみなく与えるご性質を示すべきだと言っています
パウロが次に取り上げたのは教会の高齢の男性たちの問題です
テモテは年長の彼らを敬わなければなりません
おそらくお酒がらみと思われる不適切な行為は見過ごせません
彼らもエペソ教会の評判を傷つけていました
テモテは愛をもって彼らに立ち向かい
彼らが指導者ならその立場からおろさなければなりません

パウロはここで興味深い付け足しをしています
テモテ自身が一滴も酒を飲んではいけない訳ではなく
むしろ胃が弱いなら
夕食の時にグラス一杯のワインを飲むといいと勧めているのです
それからパウロはクリスチャンの奴隷のことに触れています
彼らの中にはクリスチャンの主人を軽んじている者たちがいました
もちろん福音はイエスに従う者はみな平等だと見なします
しかしその平等は教会の使命と証しを妨げない配慮のもとに
実現されなければならないとパウロは考えました
もし教会が奴隷の反乱に加担するならそれは問題です
クリスチャンたちが神の家族としての新しい価値観によって
ローマの家庭を戦略的に変革するには
人々に拒否感ではなく好意をもたれるような配慮が必要なのです
パウロは最後にもう一度墮落した教師たちに立ち向かうよう
テモテに促して手紙を閉じています
彼らの狙いは信徒を増やし教えることの見返りとして
多額のお金を奪うことだとパウロは暴露しています
この教師たちはイエスを裏切りシンプルな生活で満足しなさいという
イエスの教えを踏みにじているのです
パウロはエペソの裕福なクリスチャンたちに
善い行いに富むように命じ惜しみなく与え
与えられたすべてのものを王なるイエスに捧げるよう教えています
そして最後の詩は
すべての王の上に君臨する真の王であるイエスを描いています
第一テモテはとても重要な手紙で
私たちに教会の性質と使命について包括的な理解を与えてくれます
イエスの共同体が信じているものは
その街における共同体の生き方と振舞いを決めるものとなります
だからその神学と信条は常に聖書とイエスの良い知らせと照らし合わせて
吟味され形作られなければなりません
また教会がその地域で人々の目にどう映るかも
パウロにとっては非常に重要でした
クリスチャンはよみがえられた王なるイエスに仕えるがゆえに
高潔で行いがよく最も貧しい人や弱い人に尽くす人々として
知られなければならないのです
これがテモテへの手紙第一です

【要約】

パウロは何年にもわたる伝道旅行で新しい教会を建て、多くの同労者を集めました。その中でテモテも協力者の一人で、彼を訓練し他の教会に送り出しました。エペソの大教会で偽教師たちが間違った教えを広めたため、パウロはテモテを派遣し、教会の秩序を取り戻す使命を与えました。手紙は3つのセクションで構成され、最初と最後ではテモテが偽教師たちに立ち向かうよう指示し、その間にエペソの教会の問題に関する具体的な指示が含まれています。また、手紙はイエスの復活と王としての賛美で締めくくられています。パウロは偽教師たちの誤った教えとその影響について警告し、特定の問題を取り上げています。その中には祈りの重要性、女性の役割と教育、指導者

の資質、食事や結婚に関する誤った教え、未亡人への支援、高齢の男性とクリスチャン奴隷に対する配慮が含まれます。手紙の結びでは偽教師たちの動機を明らかにし、イエスに仕える高潔な生き方を奨励しています。第一テモテ手紙は教会の性質と使命について包括的な理解を提供し、信仰と行いを結びつける重要な指南書です。